

いざという時に役立つ機能が追加

LINEで災害に備えよう！

問危機管理課 Tel 71-2119



市公式 LINE の「防災・災害」メニューではハザードマップや避難所開設状況が確認できます。

このたび新たに災害発生時に役立つメニューを追加しました。詳細は右上の2次元コードからご覧ください。

なお、11月1日に実施する避難所開設訓練で試験的に運用します。

ここが進化！新しい支援メニューのポイント

①LINEで簡単、避難所受付

1. 受付時間の短縮
⇒ 2次元コードを提示するだけ
2. 手書き不要
⇒ 避難時の混雑やストレスを軽減
3. 事前登録で家族分も一括管理
※今までの受付用紙での受付もできます。

②在宅避難をLINEでサポート

1. 停電・断水状況報告
2. 必要な物資の依頼
3. けが人情報等の通報

③土砂崩れ等の被害報告をLINEで

位置情報を送信して迅速対応
⇒ 素早い状況把握と早期復旧が可能に

④LINEで申請、り災証明書

LINE に事前登録

避難所へ

2次元コード表示

避難所
受付完了



↑友だち追加
はこちらから

LINE 機能を使えば避難所受付が数十秒で完了！

災害時には避難所受付の混雑が予想されます。

この機会にぜひ事前の登録を。

交通死亡事故ゼロ連続300日達成 推進本部から市に表彰

市内の交通死亡事故ゼロ期間が300日を超え、県や県警でつくる長野県交通安全運動推進本部(本部長・長野県知事)から9月19日(金)に顕彰を受けました。

また当日は市役所前の街頭で交通安全の啓発活動に関係機関と連携して行いました。今後も関係機関や団体と連携し悲惨な交通事故を1件でも減らすよう務めていきます。



表敬訪問

全国で優秀な成績を収めた皆さんが市役所を訪れ、太田市長に結果を報告しました。(敬称略)

第18回書道パフォーマンス甲子園 準優勝
松本蟻ヶ崎高校書道部 竹内来住・岩間有那
高春小桃・有山和香菜



第35回静岡・ちゃっきり節日本一全国大会 優勝
宮沢莉乃音(写真中央)



平和への祈り 優しい音色と共に



平和への願いを込めた演奏が響くコンサート

市は先の大戦で亡くなられた皆さんを悼み、平和の尊さを考える戦没者追悼式と被爆ピアノ・被爆樹コカリナ平和祈念コンサートを9月6日に豊科公民館で開きました。追悼式で太田市長は「悲惨な戦争の記憶を風化させることなく次世代に継承することが私たちに課せられた使命。今ある平和と繁栄は戦争で亡くなられた多くの尊い犠牲の上に築かれていることを決して忘れてはならない」とあいさつ。参加した市民ら約200人が黙とうし、代表者

が祭壇に献花を行いました。その後のコンサートでは、被爆ピアノを通じた平和活動を行う矢川光則さんが「広島島の爆心地付近で被爆したが音色は当時のまま。思いをはせて聞いてもらえれば」と舞台のピアノを紹介。会場は被爆樹で作られたコカリナと共に平和を願う演奏に包まれました。市では戦後80年となる本年、さまざまな平和事業を行い、戦争のない平和な暮らしを次世代につなぐ取り組みを続けていきます。

●豊科中央児童館が完成 公園と一体的な利用へ
昨年4月から現地建て替え工事を行っていた豊科中央児童館が完成し、9月25日に地元関係者や工事関係者ら約40人が集まりしゅん工式が行われました。太田市長は「年齢や性別、障がいの有無などに関わらずあらゆる人が集える児童館となることを期待する」とあいさつ。施工者を代表して株式会社佐佐原建設代表取締役の佐原良彦さんは「建物は本日が誕生日。子どもが成長するようにこの施設も使いながら温かく育ててほしい」と話しました。

建設にあたっては、豊科地域児童館建設検討会の皆さんなどの意見を参考に、隣接する豊科中央公園と一体的な利用ができるよう建物を配置しました。また、延べ床面積は旧児童館の約1.6倍の広さとなっており、これまで1部屋だった遊戯室に加え、新たに未満児遊戯室を設けて、より安全に遊ぶことができる環境を整えました。児童館は引越した後の開館準備のため、10月31日まで休館し、11月1日にオープンします。



豊科中央公園側に作られた庭にはインクルーシブ遊具も設置されている

安曇野の旬を新宿駅へ 安曇野市×あずさマルシェ in LUMINE AGRI MARCHE

本年度4回目を迎えた「あずさマルシェ」が9月6日・7日、JR新宿駅ミライナタワー改札外で行われました。販売ブースには特急あずさで運ばれた朝取れスイーツコーンやリングをはじめ、南安曇農業高校の生徒が製造した加工品、クラフトビールなど多彩な商品が並びました。販売されたスイーツコーンは、昨年に引き続きイベント協力者であるJR東日本旅客鉄道株式会社の社員の皆さんが安曇野を訪れ、生産者と一緒に収穫した

もの。会場は旬の味を求める多くの駅利用者や買い物客でにぎわいをみせていました。

市では今後も安曇野の農産物を通じ、その魅力を広く発信していきます。

